

# 平成29年度 教員免許状更新講習シラバス

■講習名	【必修】教育の最新事情
■時間数	6時間
■受講対象者	全教諭
■担当講師	古田 薫（兵庫大学健康科学部教授） 島崎 保（姫路獨協大学医療保健学部特任教授） 北島 律之（兵庫大学共通教育機構教授） 加藤 和代（兵庫大学健康科学部准教授） 井上 博嗣（加古川市教育委員会学校教育科指導主事）
■評価方法	6講習の筆記試験の成績により評価します。各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。
■教材等	必要に応じて資料を配付する。

## ■講習の概要

多くの教育問題が発生している我が国の現状を踏まえて、様々な教育学的・教育心理学的理論や実践例を援用しつつ以下の課題について受講生と共に考えます。すなわち、教職についての省察、子どもの変化についての理解、教育政策の動向についての理解、学校の内外での連携協力についての理解などについて、教員に必要なとされる共通の今日的な教育課題、さらには最新知識・技能の理解を深めます。

### 講習Ⅰ 教育の現在と未来

近年の法令改正及び国の審議会の状況や学習指導要領改訂等、教育の課題と教育改革の動向を整理分析する。また、世界的な教育改革の動向についても概観し、日本の状況と照らし合わせながら教育の現状について理解を深め、今後の教育の在り方について展望する。

#### 成績評価の観点

- ①教育の課題を踏まえて、近年の様々な教育制度改革の動向について説明できる。
- ②教育制度の変化と自身の課題と実践の方向性を関連付けて省察し、今後の学校教育の在り方を展望することができる。

〔担当：古田 薫〕

### 講習Ⅱ 錯綜する社会の中の子ども

子ども理解は教育活動の前提であるが、子どもの在り様は、その時代状況と切り離して捉えることは出来ない。本講義では価値観等が錯綜していると言われる現代社会が、子どもの諸活動にどのような影響を与えているのかについて、対応策を含めて論ずる予定である。

#### 成績評価の観点

- ① 解答方法等の指示に従っていること。
- ② 講義内容を十分に咀嚼していること。
- ③ 自らの教育活動と関連させていること。

〔担当：島崎 保〕

### 講習Ⅲ 脳科学と心理学からみた子どもの発達

近年の脳科学の知見を心理学的に解釈しながら、子どもの発達を考える。特に、知能と深く関わる「ワーキングメモリ」、他者とのコミュニケーションと深く関わる「心の理論」について、心理現象とその神経基盤を解説する。多様な子どもたちへの対応を行う上で有益である心の科学的理解に主眼を置く。

#### 成績評価の観点

知能やコミュニケーションにかかわる脳の仕組みと、それに関わる心理的な現象を、子どもの発達の観点から理解できていることを重視する。具体的には、脳における神経伝達物質やシナプスについての基本事項、ワーキングメモリや心の理論の概念、心の発達にともなう脳内の変化などから出題する。

〔担当：北島 律之〕

#### 講習Ⅳ 最近の不登校をめぐって～これからの支援～

不登校の要因や背景が多様化、複合化している最近の状況を概説し、これからの教育的支援のあり方を考察する。具体的には、不登校の子どもの援助方法と併せて、不登校を出さない学級、学校づくりの視点からも教師ができることを考える。

##### 成績評価の観点

近年の不登校の状況を踏まえ、学校における不登校の支援体制や不登校の未然防止における担任の役割について理解し、説明することができる。

〔担当：加藤 和代〕

#### 講習Ⅴ 教師が身につけたいカウンセリングマインド

児童生徒の心の諸問題を概説し、カウンセリングマインドを活かした教育活動のあり方と援助の方法を取り上げる。日常的に児童生徒の身近にいる教師が「教え、導く」学習指導的役割と併せて、「受けとめ、理解する」カウンセリング的役割をどのように果たしていくのかを考え

##### 成績評価の観点

カウンセリングマインドについて理解し、学級経営、授業、児童生徒や保護者との面談等の場面で、カウンセリング技法を活かした応答や姿勢を考えることができる。

〔担当：加藤 和代〕

#### 講習Ⅵ 発達障害のある子どもへの具体的支援

自閉症スペクトラム、ADHD、LDなど発達障害のある子どもの理解と特性に応じた具体的支援について解説する。また、ユニバーサルな教育支援のあり方や合理的配慮の考え方について解説する。

##### 成績評価の観点

- ①自閉症スペクトラム、ADHD、LD等の発達障害に関する正しい知識を持ち、それぞれの特性について説明し、具体的支援について述べることができる。
- ②ユニバーサルな教育支援、合理的配慮の考え方について理解することができる。

〔担当：井上 博嗣〕